

加硫促進剤のピンキュアー性について (6)

前回¹⁾は、CZにチウラム系加硫促進剤を併用した配合ゴムの貯蔵安定性について紹介した。今回は、CZとジチオカルバミン酸亜鉛加硫促進剤系について紹介する。

図1にCZにジチオカルバミン酸亜鉛塩を併用した配合ゴムの40℃で放置したときのtc(10)の変化率を示した。前回¹⁾のチウラム系と比較して配合ゴムの安定性は良好であることが認められる。図2から4にそれぞれの加硫曲線を示した。

実験

1. 配合

SBR カーボンマスターバッチ[※] 228, 酸化亜鉛 5, 硫黄 2, CZ 1, ジチオカルバミン酸亜鉛塩 0.5 [※]JSR, CH-55

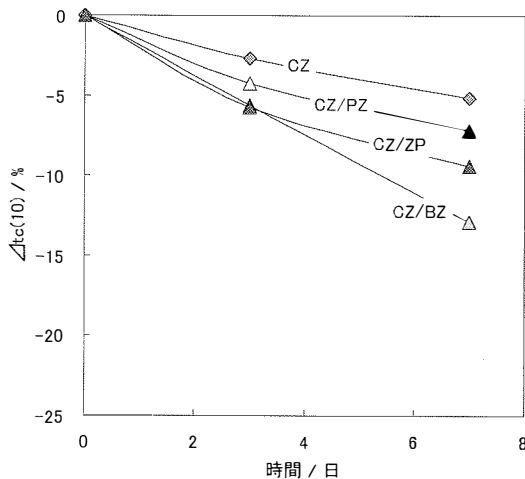


図1 配合ゴムの40℃放置後におけるtc(10)の変化率

2. 配合ゴムの貯蔵安定性試験

40℃の恒温槽中に配合ゴムの所定時間放置後、加硫試験を実施した。MDR2000, 160℃

参考文献

1) NOC技術ノートNo.558, 日本ゴム協会誌; 80(8), 会告197 (2007)

ここに記載した内容は、細心の注意を払って行った試験に基づくものでありますが、結果をすべて確実に保証するものではありません。

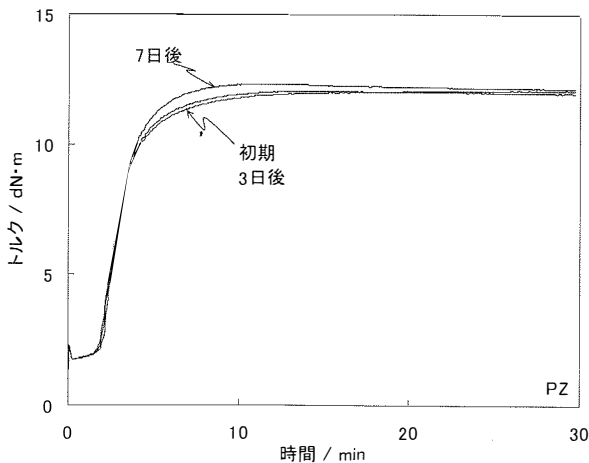


図2 CZ/PZ配合ゴムのピンキュアー性

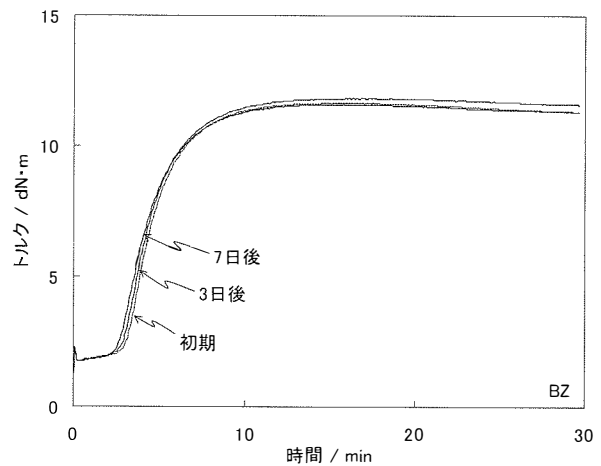


図3 CZ/BZ配合ゴムのピンキュアー性

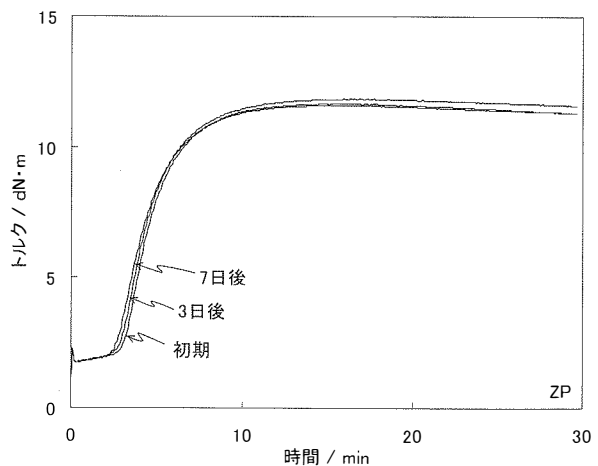


図4 CZ/ZP配合ゴムのピンキュアー性